

モニタリング結果に基づく試験操業の支援

福島県水産試験場 漁場環境部

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質が海面漁業へ与える影響

研究課題名 海洋生物への移行に関する調査・研究

担当者 森下大悟・根本芳春

I 新技術の解説

1 要旨

2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所(以下第一原発)の事故により、福島県の高産魚介類から国の基準値を超える放射能が検出されたため、沿岸漁業は通常の操業が自粛されている。福島県では農林水産物の緊急時モニタリングを実施し、高産魚介類の放射性セシウム濃度(Cs-134とCs-137の合計値、以下放射性Cs濃度)を検査している。このデータに基づき、安全が確認された魚介類を対象に試験的な操業を開始している。

今年度もモニタリング結果を整理し、情報を漁業関係者等に提供することで、試験操業を支援した。

- (1) 2011年4月7日から2017年12月28日までに採取された203種、49,716検体の放射性Cs濃度を整理した。
- (2) 2017年度当初、国から出荷制限の指示がなされている高産魚介類は12種であった(図1)。出荷制限魚種についても、2015年4月以降、基準値超過個体が確認されていないことから、国に対して安全性を示す資料を提示した(図2、3)。2017年12月現在、指示がなされているのは10種である。
- (3) 20km圏内におけるモニタリング結果をとりまとめ、資料を提示した。
- (4) 2017年度より、出荷制限魚種を除くすべてを試験操業対象種とすることが可能になった。モニタリング実績のある魚種から選定し、試験操業検討委員会に水揚げ対象種への追加を提案した。

2 期待される効果

- (1) 4月27日にイカナゴ、6月21日にウスメバルの出荷制限が解除された。
- (2) 新たに、シラス・シラウオ船びき網漁業及びサワラ流し網漁業が20km圏内で操業可能となった。
- (3) 水揚げ対象種が97種から約170種に増加した(表1)。
- (4) 試験操業で漁獲される高産魚介類の安全性が担保される。

3 活用上の留意点

特になし

II 具体的データ等

図1

海産魚介類に関する国の出荷制限等指示 2017年12月現在 10種類

イカナゴ(稚魚を除く) H29.4.27解除 ウスメバル H29.6.21解除 ウミタナゴ カサゴ	キツネメバル クロダイ サクラマス シロメバル	スズキ ヌマガレイ ムラソイ ビノスガイ
--	----------------------------------	-------------------------------

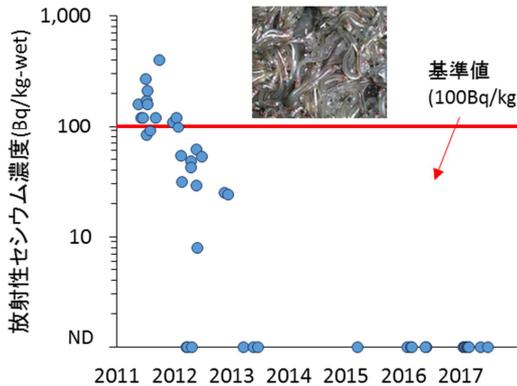


図2 イカナゴの放射性Cs濃度推移

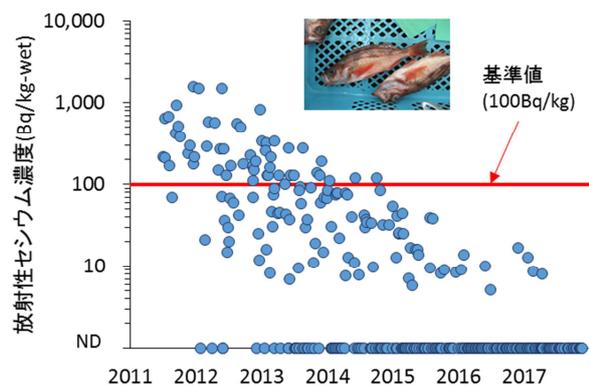


図3 ウスメバルの放射性Cs濃度推移

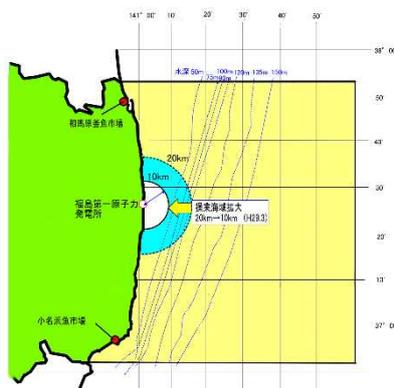


図3 試験操業における操業海域

表1 2017年度に増加した水揚げ対象種一覧(いわき地区)

魚類	アカアマダイ	魚類	ギンザケ	魚類	ホテイウオ
	アカドンコ		クサウオ		ボラ
	アブラガレイ		クロアナゴ		マツダイ
	アブラツノザメ		クロムツ		マルソウダ
	アブラボウズ		クロメバル		メジナ
	アラ		コノシロ		メナダ
	イカナゴ		コブシカジカ		ヤナギノマイ
	イシガキダイ		ゴマフグ		ヨロイタチウオ
	インダイ		サッパ		アオリイカ
	イズカサゴ		シマアジ		エゾハリイカ(コウイカ)
	イトヒキダラ		シマガツオ	ドスイカ	
	イネゴチ		シロギス	タコ類	
	イボダイ		シロゲンゲ	イイダコ	
	イラコアナゴ		スマ	イセエビ	
	ウケグチメバル		セトヌメリ	キシエビ	
	ウスバハギ		ダツ	クルマエビ	
	ウスメバル		チカメキントキ	サルエビ	
	ウルメイワシ		テナガダラ	シヤコ	
	エゾメバル		ニギス	トゲクリガニ	
	オニヒゲ		ニジカジカ	アヤボラ(ケツフ)	
カタクチイワシ	ニシン	サラガイ			
カナフグ	ハガツオ	ナミガイ			
カワハギ	ハツメ	ネジヌキバイ			
ガンゾウピラメ	ハマトビウオ	ネジボラ			
カンテンゲンゲ	ヒラスズキ	ホタテガイ			
ギス	ヒラソウダ	マナマコ			
ギンアナゴ	ホッケ	マボヤ			

III その他

1 執筆者

水産試験場 漁場環境部 森下大悟

2 実施期間

平成23年度 ~ 平成29年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度 ~ 平成28年度福島県水産試験場事業概要書